

2008年2月18日

自動車用燃料タンク等大型容器用高密度ポリエチレンの
増産に関する設備改造について

日本ポリエチレン株式会社（本社：東京都港区 社長：村上 永一）は、高密度ポリエチレン（以下「HDPE」）事業強化策の一環として、大分工場のHDPE製造装置2系列（クロム触媒系1、チーグラ―触媒系1）のうちチーグラ―触媒系HDPEのプラントをクロム触媒系HDPEとの併産プラントに改造し、クロム触媒系HDPEの生産増強を図ることと致しました。

HDPEのうち、クロム触媒系HDPEが優位とされている大型中空成形用途については、今後さらに市場規模が拡大すると見込んでいます。特に、大型中空成形の代表的な用途であるPFT（プラスチック製自動車用燃料タンク）の搭載率は、現在国内では未だ40%弱程度ではありますが、軽量化対応力や耐久性等が評価され2015年には60~70%にまで増加するものと予想されます。また、大型の工業薬品容器である200リットルドラムも鉄製ドラムからの代替の進展、1000リットルのIBC（Intermediate Bulk Container）についても、物流の大型化／効率化による採用増加が見込まれています。

当社はこれらの大型容器用途で高い評価を受け、高いシェアを有していることから、今後も一層の販売増が期待できます。今回の設備改造により、大型容器用HDPEの需要増加に対応するとともに、これまで当社が培ってきた触媒技術、生産技術、製品開発技術を生かし、更なる軽量化等の市場ニーズに応えるべく一層の高性能化を進めてまいります。

【設備改造の概要】

1. 改造する製造設備 大分工場 D3 プラント（大分県大分市）
2. 生産能力 HDPE：199千トン／年
（うち D3 プラント：116千トン／年）
※設備改造による生産能力の増減はありません。
3. 設備投資額 約11億円
4. 完成時期 2010年4月

【本件についての問い合わせ】

日本ポリエチレン株式会社 総務部 TEL：03-6414-4300